

『レポート課題集』作成の要領 (SR 科目用)

1. シラバス

通信教育部における 4 つの授業の方法

通信教育部では、通学課程と異なり、4 つの授業方法が認められています。

今回お願いする SR 科目は、

(スクーリング=S 1 単位分) =スクーリング受講+スクーリング試験

- ①「スクーリング (面接授業)」
- ②「オンデマンド・スクーリング (メディアによる授業)」
- ③「ビデオ・スクーリング (放送授業)」

(レポート=R 1 単位分)

- ④「印刷教材等による授業」=教科書等+レポート (添削指導を含む)
で単位を修得します。

SR 科目は、すべてを『レポート課題集』に掲載いたします。

2. 『レポート課題集』の項目一覧 ※⑮を除き、すべて必須項目

(科目共通部分)

- ①授業科目名・科目コード・担当教員名・単位数・履修方法・配当学年・科目区分
授業形態 (演習、実験、実習、実技の場合のみ明記)
- ②科目の内容
=全体 できるだけスクーリングとレポートの内容を個別に記載
- ③到達目標
=全体 必要に応じてスクーリングとレポートの内容を個別に記載
- ④教科書

(スクーリング部分)

- ⑤スクーリング講義内容
- ⑥講義の進め方
- ⑦スクーリング評価の基準
- ⑧スクーリング事前学習
- ⑨スクーリング事後学習

(教科書+レポート学習部分)

- ⑩在宅学習 15 のポイント
- ⑪レポート課題
- ⑫アドバイス

(科目共通部分)

- ⑬卒業までに身につけてほしい力との関連
- ⑭参考図書
- ⑮その他、レポート評価基準、受講条件、事前に学習しておいてほしい科目などの掲載も可能です。

3. 項目ごとの記載の仕方と留意点

【科目共通部分】

(1) 科目名・単位数など

事務室で記載します。校正時にご確認ください。

(2) 科目の内容

ご担当科目の紹介やねらいを、300～500字以内でご執筆ください。

科目全体として記載の後、

【スクーリングで学ぶ内容】

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

を分けて記載していただいた方がよいと思います。

(3) 科目の到達目標

- ・到達目標として学生にこの科目で修得してほしいことを、3～6項目程度の簡条書きで記載をいただけないでしょうか。
- ・「スクーリング試験」「レポート課題」は「到達目標」と関連させてください。
- ・できるだけ「理解する」のような一般動詞ではなく、「～を述べることができる」「～を説明できる」「～について解説できる」等、学習者の行動目標を記述する動詞を使って、「到達目標」を記載してください（参考：東北福祉大学 シラバス作成の要領 http://www.tfu.ac.jp/fd/material/pdf/syllabus_point_2015.pdf）。

科目全体として統一した到達目標を記載した後、

【スクーリングの到達目標】

【教科書・レポート学習の到達目標】

と分けて記載していただいてもOKです（分けなくても可です）。

(4) 使用する教科書

- ・使用する教科書をご記載ください。
○○○編著 『書名』 出版社名、発行年 の書式であげてください。
改訂版が出ているものは版も『書名（第4版）』明記し、（第3版でも可）などの表記を入れてください。

【スクーリング時の教科書】についても、指示を記載してください。

(例) 上記教科書は必ず持参してください。

上記教科書を参考程度に使用します。
スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。

※スクーリングでは、①教科書は用いない、または②レポート学習と同じ教科書を使用することのいずれかにしてください。レポート学習と別の教科書の使用はご遠慮ください。

※教科書が変更・改訂になった場合、最低でも変更後2年間は、旧教科書所持者がいることをご配慮ください。

【スクーリング部分】

(5) スクーリング講義内容

(1) 下記記載例のようにコマごとの講義内容をテーマと内容を分けて記載してください。

(2) コマ数に応じて、最終コマ（8コマの場合は8コマめ）に試験を行っていただきますが、最終コマの前半10～30分は8）として質疑応答（または講義）などの時間と記載してください。

9）としてスクーリング試験を記載してください。

【8コマの講義の場合の記載例】 = 表形式で掲載いたします

(例)	テーマ	内容
1)	社会保障制度の概要①	子ども手当・年金保険制度
2)	社会保障制度の概要②	医療保険制度・介護保険制度
...		
8)	質疑応答（または最終コマに10分～30分の講義をされる場合はその内容）	
9)	スクーリング試験	

(6) 講義の進め方

・スクーリング講義の進め方について記載をお願いいたします。

(例) パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

(例) 配付資料をもとに板書もしながら進めます。途中グループワークを行います。

(7) スクーリング評価の基準

(例) ・授業への参加状況 50% + スクーリング試験 50% (持込可 or 自筆のノートのみ可 or すべて不可)。試験では、とくに〇〇についての理解を問います。

・スクーリング試験 100% (持込可 or 教科書・ノート可 or すべて不可) 試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

学習者が授業の到達目標をどの程度達成したかを客観的に厳格に評価するもので、配分割合を必ず明記してください。

(8) スクーリング事前学習 ※事前学習について、何らかのご指示をお願いいたします。

・予習すべき内容をご指示ください。

(例) 教科書の〇章・〇章は読んできてください。

- 講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。
- ・事前学習時間の目安もご記入ください。
(目安：5～10時間)などと記載してください。

1 単位あたり 45 時間の学習時間を確保することを義務づけられています。事務室で校正原稿に記入させていただきましたが、先生方で適宜修正をしてください。

(9) スクーリング事後学習 ※事後学習について、何らかのご指示をお願いいたします。

- ・復習すべき内容をご指示ください。
(例) 教科書の○章・○章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。
- ・事後学習時間の目安もご記入ください。
(目安：20～25時間)などと記載してください。

1 単位あたり 45 時間の学習時間を確保することを義務づけられています。スクーリングの時間に合わせて必要時間を満たすよう事務室で校正原稿に記入させていただきましたが、先生方で適宜修正をしてください。

【教科書＋レポート学習部分】

(10) 在宅学習 15 のポイント

- ・教科書の内容（一部参考図書の利用指定も可）を 15 回に分割して、以下の 3 項目に分けて、表のスタイルで掲載をお願いいたします。
 - ①テーマ = 授業計画のテーマに相当するもの。同じようなテーマを扱う場合でも、『「○○①△△」「○○②□□」』として記載してください。
教科書の章立てからなどできるだけ短く。
 - ②学習内容 および キーワード（キーワードはなくても可）
= 1 回あたり 1～2 文でお願いいたします。
 - ③学びのポイント = 1 回あたり 1～2 文でお願いいたします。実際にどのように学習してほしかなどの記載をお願いいたします。
- ・学習上大切な点（教科書 1 冊全部理解するのは無理なので、学習のポイントを絞る）を伝えていただく趣旨で、おまとめください。
- ・1 項目あたりの学習時間は標準的に 6 時間（ただし 4 単位科目は 12 時間）としています。
- ・SR 科目の場合も、15 に区切っていただき、7 つをスクーリング事前事後学習、8 つをレポート学習などのように位置づけていただけるとよいと思います。

※参考図書の扱いについて

- ・教科書に掲載されていないことで、学生に学んで欲しいことと思われる場合は、参考図書の一部を「15 のポイント」に項目として入れていただくことも可能とします。
- ・レポートや科目修了試験は、基本的には教科書から出題いただき、参考図書にしか掲載されていないことの出題はご遠慮ください。

(11) レポート課題

- ・2単位のSR科目のレポート課題は1課題とします。
- ・1単位分のレポートの解答は1000字以上を必須とし、400字詰原稿用紙5枚=2000字程度としています。
(1単位分の課題をさらに2つ以上に分割していただいても結構ですが、合計で2000字程度で解答できる分量にしてください)。
- ・レポートは原則として論述式です。課題は教科書の内容からご出題ください。
- ・返却方法を学生に伝えることになりましたので、事務室にて「※提出されたレポートは添削指導を行い返却します」と記載していますが、何か追記すべきことがあればご指示ください。

(12) アドバイス

- ・レポート課題に取り組むにあたっての学生へのアドバイスを全体解説とともに、各課題ごとをお願いいたします。
- ・レポート評価の観点も交えて、2000字~14000字程度の分量でご執筆ください。
- ・レポート用紙の書式は、こちらで一括で指示しますので、ご記入は不要です。

【科目共通部分】

(13) 卒業までに身につけてほしい力との関連

学位授与方針(ディプロマポリシー)や学部の教育目標との関連で「身につけてほしい力」を記載してください。

2017年~、または現行の学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連で、「とくに身につけてほしい力」としてあがっているものを列挙させていただいていますので、適宜、先生の思う文面にご修正ください。

(記載例)

とくに、〇〇、〇〇を身につけてほしい。

〇〇、〇〇にはディプロマポリシーの言葉を入れていただければ、と存じます。

(福祉心理学科のDP=2017年~のもの)

総合的な人間理解力、根拠に基づく情報発信力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力、共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力、自己理解に基づくセルフコントロール力、集団理解に基づく対人調整力、心理学の学びを生かした社会貢献力

(社会福祉学科のDP=現行のもの)

基礎的知識、専門的知識、応用的知識、コミュニケーション力、レポート作成力、情報コミュニケーション技術(ICT)活用力、論理的思考力(クリティカルシンキング力)、問題解決力、自己管理能力、協調性・主体性・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、創造的思考力

(14) 参考図書

- ・学生のための参考図書を数点あげてください。
○○○編著 『書名』 出版社名、発行年 の書式であげてください。

(15) その他 レポート評価の基準・受講条件・事前に学習してほしい科目

【レポート評価の基準】

- ・全体で『学習の手引き』p. 195 のように統一してルーブリック評価を導入していることといたしております。
- ・ただし、とくに先生としてレポート評価をこのように行っている、ということがありましたら、別途記載をお願いいたします。

【受講条件・事前に学習してほしい科目】

- ・あれば記載をお願いいたします。ただし、各学科の「履修系統図」と矛盾する場合は、ご相談をさせていただきます。
- ・その他、受講にあたって、学生に伝えておいたほうがよいことは記載してください。「履修上の注意」などを事務室で追加させていただくこともありますので、ご了承ください。

シラバス作成にあたって、ここに記載のないことは、教務部「シラバス作成の要領」に準じて、記載をお願いいたします。